



常に笑顔をつけない

どんな状況下でも、最後までやり抜く。

<災害の影響を受けた子どもたちの事業：インターン生からのレポート>

レイテ中部事務所でインターンをしている山崎です。海外でのプロジェクトの進め方を学びたいと思いインターンに応募し、2014年12月に大型台風22号（ハグビート）で被災したフィリピン中部サマール島の住宅建設事業に参加しました。

私が現地入りした2月、既に被災から数ヶ月経っているにもかかわらず、半壊した家にビニールシートを被せただけの小さな家に住んでいる方が沢山いました。特にお年寄りや障がいのある方、女性のみでの世帯では、自ら家を修復することはもちろん、修復に必要な資材を購入することも困難な状況でした。更に、被害が大きかった地区の一つの村は、役員による派閥等の地域の政治的な問題が根強く、他NGOは、活動は難しいと判断して次々と撤退していました。

そんな中、アイキャンはまず、住民や役員が納得できるよう客観的な基準を設けるため、村の役員のみならず町の役員や現地のエンジニア、そして住民たちとも話し合い、時間をかけて一つひとつの過程に公平性を持たせるようにしました。そして、炎天下の中、全スタッフが朝から晩まで一軒一軒回り、住民の疑問や不満に直接対応していきました。どれだけ疲労が溜まっても、疲れた顔一つ見せずに笑顔で住民に声をかけるスタッフの姿には、同じ団体の仲間ながら心を打たれるものがありました。こうした過程を経て、はじめは非協力的だった村の役員も次第に協力的になり、住民への資材提供や住宅の再建が進んでいきました。

それから4ヶ月後、修復・建設合わせて309世帯の家が完成しました。今では村の至る所にアイキャンが修復した家が立ち並び、私が始めてきた時とは、全く別の光景が広がっています。ある時、83歳で1人暮らしのおじいさんが、私の手を強く握って涙を浮かべながら「ありがとう、ありがとう」と何度も何度も感謝の言葉を述べてくれたことが、とても印象に残っています。

この事業を通して、どんな状況下でも住民の立場を理解することを放棄せず、住民と「ともに」活動を進めていくことの大切さを学びました。今後も、応援して下さる日本の方々の想いを最大限に届けようとするスタッフを見習いながら、活動に取り組んでいきます。

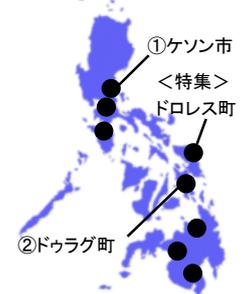


レイテ中部事務所
山崎 幸秀 (やまさき ひでゆき)

～プロフィール～

1988年生まれ。兵庫県出身。大学卒業後、IT機器の商社での3年間の営業職を経て、2015年2月よりインターンと

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

①路上の子どもたち(ケソン)

カフェのオープンに向けて



元路上の子どもの協同組合カリエの18名が、原価計算や価格設定の仕方を学びました。講師は、日本からのインターン。会計の基本について復習した後、自分たちの作るパンやコーヒーの原価を計算しました。カフェのオープン前に、会計管理も自分たちでできるようになるため、エルシーさん(16歳)やジェームス君(20歳)は必死にメモを取っていました。(5月15日)

②災害の影響を受けた子どもたち(ドゥラグ)

完成した74教室の引き渡し式典



新設した18教室及び修復した56教室(12校)の、教育省への引き渡し式典が行われ、教育省や建設労働者、子どもたちや保護者など、約120名が参加しました。ジェネラルロハス小学校のカリト君(12歳)は、「新しい快適な校舎で勉強できるのがとても嬉しい。勉強を頑張りたい。」と語りました。現在までに14校115教室の建設・修復が完了しています。(5月8日)

今月のICANを増やす活動

フェアトレード事業

5月9日/名古屋

世界フェアトレード・デー

5月の第2土曜日は「世界フェアトレード・デー」です。名古屋でもイベントが開催され、アイキャンからは、高校生を含む8名のボランティアが、パヤタスごみ処分場周辺の女性たちが作った商品を販売しました。



一番積極的に声掛けをしていたMさんは、「商品の背景を説明すると、真剣に聞いてくれる人もいて、話すのが段々楽しくなった」と話していました。

MYアイキャン事業

5月20日/名古屋

千種高校インターアクトクラブからのご寄付

5月2日、路上の子どもの保護施設「子どもの家」への募金活動をしたと、千種高校インターアクトクラブの4名が日本事務局を訪れました。その時の説明をもとに校内や駅前前で呼びかけ、後日二日間



集めた募金は5万円を超えました。22日に早速届けてくれたメンバーのSさんは、「現地の子どもたちに会いに行きたい」と語りました。

今月のNews



外務省「NGO相談員」を6年連続で受託!

「NGO相談員」は、NGOの中でも経験の豊富な団体が、外務省からの受託により、他のNGOや市民からの、NGO活動に関する質問・相談に応じる制度です。アイキャンは、2010年度より受託しており、今回で6年連続の受託となります。イベント等での相談業務や講演を無料で行う「出張サービス」も実施していますので、詳しくは、お気軽に事務局までお問い合わせください。(TEL: 052-253-7299)

今月のMedia

新聞等に3件掲載されました!

5月1日 フリーペーパーPrimer 「第3回ANA寄席2015 in Manila」の収益金を寄贈

5月29日 中日新聞 名古屋高校生国際ボランティア団体「どえりゃあWings」が路上の子どもの保護施設建設へ寄付

5月31日 まにら新聞 「どえりゃあWings」の元代表吉野君が世界一周の旅に出発し、路上の子どもの短期保護施設を訪問

今月のICAN 名人

◎平井さん、応援メッセージをありがとうございました!

マンスリーパートナー 平井丈夫さん

「自分の考え方を変えた、アイキャンとの出会い」

インタビュー:5月15日

私は、5~6年前に、ボランティアの情報サイトでアイキャンを知りました。それまでボランティアをしたことがなく、興味本位でいくつかの団体にメールをしたところ、一番返事が早かったのがアイキャンでした。事務所を訪れると、アットホームな雰囲気ですぐになじむことができ、度々ボランティアに行くようになりました。事務所以外にも、フェアトレードの出店イベントがある時には参加するようになり、今も継続しています。

ボランティアを始めてから、人との出会いが増え、いろいろな人の話を聞く中で視野が広がり、偏った見方をあまりしなくなりました。特にアイキャンには、海外経験のある人もたくさんいて、ボランティアも含めてほとんどの人が「自分」を持っている人だと感じます。そういう人と話していると楽しいし、自分にはない考えを持っていて勉強になります。人生観も変わったように思います。

フィリピンに対して、自分が最前線で何かをできるわけではないですが、これからもマンスリーパートナーやボランティアを通してスタッフを応援することで、現地にも役に立てたらと思っています。

